

平成 28 年 第 1 回教育委員会 会議録

日 時	平成 28 年 1 月 26 日（火） 午前 10 時～10 時 30 分
場 所	向日市役所 第 6 会議室
出席委員	永野教育長、前田委員、白幡委員、松本委員、流石委員
欠席委員	なし
事 務 局	教育部長、教育総務課長、学校教育課長、学校教育課担当課長 2 名、学校教育課主幹 2 名、教育総務課係長、生涯学習課係長、教育総務課主査
議 題	委員会諸報告
傍 聴 者	なし
教育長	開会宣言
教育長	会議規則の規定により、前年第 12 回会議録の承認について諮る。 (全員異議なし)
教育長	会議録は承認された。 本日は、委員会諸報告について報告を願う。
事務局	— 平成 28 年度指導の重点の改訂について — ○改訂の方針（資料 1 に基づき説明） ・以下のア、イを踏まえ検討するとともに、教育に関わって国や府の改正法や条例等を踏まえた施策の動向を注視する。 ア 現在策定中の本市の「ふるさと向日市創生計画」、「向日市教育大綱」 イ 京都府の「教育振興プラン」及び現在策定中の「学校教育の重点」、「社会教育を推進するために」 ・次年度は、本市の最上位計画である「ふるさと向日市創生計画」や新たに「向日市教育大綱」を策定するなど教育の大きな転換期と捉え、今回の改訂に当たっては、従来の学校教育と社会教育の大きな柱や項目は概ね継承しつつ、中項目以下の個々の内容等についてはできる限り整理し、次年度に重点的に取り組むべき内容について強調する。 ○変更点 資料 2 において学校教育分野の改訂後イメージを示している。 ・大項目については大きな変更等は考えていないが、ふるさと向日市創生計画との整合を図る関係で、1 つ項目が増える予定である。中項目につい

	でもほぼ継承する形で考えている。小項目については、中項目達成のための手法などを具体的に記載するといった構成としており、文言については今後整理していきたい。また、右の欄に中項目の中で特に意識すべきことについて、具体性を出して整理したいと考えている。 ・これまで複数箇所に再掲していた文言を、大きな項目に取りまとめて再掲を避けるようにしたい。例えば、「1 学習指導の充実」に「(3) 円滑な接続を図る小中連携の強化」とあるが、「6 校種間連携の強化」にも同様の内容があるため、これを整理する。 ・これからの教育行政を推進するためのキーワードとなる言葉を見直していきたい。例えば「(7) 各教科、道徳、総合的な学習の時間等での言語活動の充実」にあるように、これまでは「言語活動の充実」が1つのキーワードになっていた。これを「(4) 基礎的・基本的な知識や技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成」として、敢えて「アクティブ・ラーニング」という言葉は使わずに、その内容を簡単に表現するようにしている。 また「(9) 外国語教育の充実」は、「(8) グローバル化に対応できる人材の育成」とし、「グローバル化」という文言で整理する。 その他に、過去に理数離れが課題となっていたため(10)や(11)に特化し記載していたが、今回は学力向上の一部に含め、中項目ではなく、右側の欄に記載する。 現在はまだ案の段階なので、文言は今後整理していく。 ○スケジュール ・第2回教育委員会 各学校等からの意見を踏まえて、市として重点的に取り組みたい事項等について追加・修正した「指導の重点」(案)を提示 ・第3回教育委員会 「指導の重点」最終案を提案 ・3月末に各学校及び関係機関に配布を予定している。 【質疑】
委員	「アクティブ・ラーニング」という言葉自体は広まってきていると思う。敢えて使わない理由は何か。
事務局	主体的に学ぶこと、活用する力を身につけること等が大切であって「アクティブ・ラーニング」という言葉だけが一人歩きしないよう、意味や内容が伝わるようにする方がいいと考えている。

委員	初めて耳にする人もいるので、誰にでも分かりやすい言葉を使う方が具体的なイメージが湧きやすいと思う。
教育長	京都府教育振興プランでも「アクティブ・ラーニング」という言葉は使わずに、「主体的・協働的に学習する」という表現を使っているので、本市の指導の重点でも、どのように記載するかが検討事項である。
委員	「協働的に学習する」とは具体的にどのようなことか。
事務局	例えば、各クラスで小グループに分かれて、課題解決に向けて意見を交わすことなどである。 文部科学省では有効な方法として、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループワーク等といった例をあげている。
委員	できるだけ簡潔な表現にした方が、見やすいものが出来ると思う。ただし、内容があまりに簡略化してしまうようなことはないようにしていただきたい。
委員	京都府教育振興プランと向日市の指導の重点が根本的に違うということとはあり得るのか。もし向日市で画期的な事業を行う場合、京都府の計画とどちらが優先になるのか。
事務局	京都府も向日市も一地方公共団体なので、それぞれが事業を実施するという観点では対等の立場であることから、本市が独自に行う事業については、当然本市の計画が優先される。
委員	従来の小項目が、今回右側の欄に記載されるということだが、この欄は毎年変わるのか。また、記載がないことも考えられるのか。
事務局	例えば、本市が作成している「大発見向日市」や「文化遺産 DVD」については、ふるさと学習で引き続き活用したいと考えている。 継続するものもあるが、その年度に特に重点的に進めるべきものについては、毎年見直しを行うことが考えられる。なお、指導の重点は全体を毎年見直している。 また、従来と同様に、小項目の記載がないものもあり得る。
委員	京都府教育振興プランで府南部地域の特別支援学校の新設と記載があるが、向日市の小中学校に関係するのか。
教育長	山城地域で新設されることが決まっており、本市は通学区域に含まれな

	い。
委員	指導の重点は、今回も従来と同様にリーフレットになるのか。
事務局	全体の構成を見てからになるが、できるだけ同様の形態で考えている。
委員	社会教育も同様の形式になるのか。
事務局	同様の予定である。
教育長	頂いたご意見を踏まえ、校長会で十分議論していただくようお願いしたい。
教育長	閉会宣言

報 告 資 料

報告者	職名	学校教育課担当課長
	氏名	奥村 久夫

平成 28 年度向日市の重点の改訂について

1 指導の重点改訂に向けて

(1) 改訂の方針

◇以下のア、イを踏まえ検討するとともに、教育に関わって国や府の改正法や条例等を踏まえた施策の動向を注視

ア 現在策定中の本市の「ふるさと向日市創生計画」、「向日市教育大綱」

イ 京都府の「教育振興プラン」及び現在策定中の「学校教育の重点」、「社会教育を推進するために」

◇次年度は、本市の最上位計画である「ふるさと向日市創生計画」や新たに「向日市教育大綱」を策定するなど教育の大きな転換期と捉え、改訂に当たっては従来の学校教育と社会教育の大きな柱や項目は概ね継承しつつ、中項目以下の個々の内容等についてはできる限り整理し、次年度に重点的に取り組むべき内容について強調

(2) 策定のスケジュール

◇第 2 回教育委員会

・上記計画等に加え、学校等からの意見を踏まえ、市として重点的に取り組みたい事項等について追加・修正した「指導の重点」（案）を提案

◇第 3 回教育委員会

・指導の重点最終案を提案

◇ 3 月下旬頃に各学校及び各関係機関に配付予定

学力の充実向上と個性を伸ばす
教育の推進

基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得をはじめ、「質の高い学力」を育成するため、指導方法・指導体制を工夫・改善し、個に応じた指導の充実に努める。
また、教員の指導力の向上を目指した研修の充実や各学校での自主的な教育活動の活性化を図り、特色ある教育活動を行う。

1 学習指導の充実

(1) 本市教育委員会指定研究制度等を活用した、特色ある研究の推進と積極的な成果の普及

(2) 学力向上プログラムに基づく検証・改善サイクルの確立と学習指導の改善・充実

- 学力向上対策会議を柱とした授業力向上に資する研修
- 児童生徒による授業評価
- 学力向上のための適切なICT活用

→ (3) 円滑な接続を図る小中連携の強化 → 6 校種間連携の強化へ移行

- 各教科・領域等における小中連携カリキュラムの改善と一層の活用による学力の向上
- 小中や小小連携による授業研究、合同研修会

→ (4) (3) 「子どものための京都市少人数教育」を踏まえ、個に応じた指導の充実による基礎学力の定着

- 学校の課題に応じた指導方法、指導体制による適切な少人数教育
- 「漢字・計算基礎学力確認シート」等の活用による基礎・基本の徹底
- 「中1振り返り集中学習」「中2学力アップ集中講座」などを活用した繰り返し指導等基礎・基本の徹底
- 地域人材やボランティア等を活用した基礎学力の定着

(5) 家庭との連携による発達段階に応じた学習習慣の確立

- 『家庭学習の手引き』の改善・充実と一層の活用 ●家庭学習課題の工夫

(6) 総合的な学習の時間等における「ふるさと学習」の充実

- 向日市の伝統や文化・歴史・産業などに係る地域教材（『大発見向日市』の冊子や『文化遺産DVD』等）や地域人材の活用
- 小中連携による系統的なカリキュラム

→ (7) 各教科、道徳、総合的な学習の時間等での言語活動の充実 → (4) 基礎的・基本的な知識や…

- 発達段階に応じた、記録、要約、説明、論述といった言語活動の充実による思考力、判断力、表現力等の育成
- 音読指導 ●新聞を効果的に活用した指導 ●古典に関する指導
- 「言語活動の充実に関する指導事例集」等の活用と積極的な教材開発

→ (8) (7) 学習・情報センターとしての学校図書館機能の充実と読書活動の充実

- 学校図書館を活用した授業 ●全校・斉読書 ●家庭と連携した家族ぐるみの読書活動
- 授業や教員研修等における学校図書館支援員の活用
- 学校図書館ボランティア、公共図書館との連携

→ (9) コミュニケーション能力を高める小・中学校外国語教育の充実 → (8) グローバル化に対応で…

- 授業や教員研修等でのALT（外国語指導助手）の積極的な活用
- 外国語指導の充実と小中学校間の円滑な接続
- 音声を中心とした外国語に慣れ親しませる活動 ●指導力向上のための教員研修

(10) 児童生徒が数理的処理のよさや楽しさに気付き、それらを進んで活用し、思考、判断する態度や能力を育成するための算数的・数学的活動の充実

- 数、式、図、表、グラフなど様々な表現手段を用いて考え、説明・表現する学習活動

学力の充実向上と個性を伸ばす
教育の推進

基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得をはじめ、「質の高い学力」を育成するため、指導方法・指導体制を工夫・改善し、個に応じた指導の充実に努める。

1 学習指導の充実

(1) 本市教育委員会指定研究制度等を活用した、特色ある研究の推進と積極的な成果の普及

(2) 学力向上プログラムに基づく学習指導の改善・充実

(3) 「子どものための京都市少人数教育」を踏まえ、個に応じた指導の充実による基礎学力の定着

(4) 基礎的・基本的な知識や技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成

(5) 家庭との連携による発達段階に応じた学習習慣の確立

(6) 総合的な学習の時間等における「ふるさと学習」の充実

(7) 学校図書館機能の充実と読書活動の充実

(8) グローバル化に対応できる人材の育成

(9) 本市主催の事業や大会、各種の作品展などを学習成果の発表の機会と捉え、教育課程に位置づけた計画的な取組の推進

- (3) ・「中1振り返り集中学習」「中2学力アップ集中講座」「ジュニアわくわくスタディ」の活用
- ・地域人材やボランティアを活用した補充学習の充実
- (4) ・算数・数学的活動をとおして、日常の事象を数理的に考察し、表現する学習活動を重視
- ・目的意識をもって観察・実験などを行い、仮説を立てたり、結果に基づいて考察したりする学習活動を重視
- (6) ・『大発見向日市』『文化遺産DVD』の活用
- ・地域人材の活用
- (7) ・学校図書館支援員の活用
- ・学校図書館ボランティア、公共図書館との連携
- (8) ・ALT（外国語指導助手）の積極的な活用

(4)の内容に含め特に意識すべき事項を右欄に整理